

プランタでも育てられる  
お好みのコンテナ菜園

写真・文：園芸研究家●淡野一郎

写真 ©ICHIRO AWANO

## ハツカダイコン(ラディッシュ)

栽培期間が短く手間いらず  
色や形のバラエティーが豊富

ハツカダイコンは、ダイコンの仲間で、ダイコン同様に原産地は中央アジアとされています。大きなダイコンが中国で発達したのに対して、ハツカダイコンはヨーロッパで発達して日本へやってきました。

名前の通り、根は驚異の速さで太り、最短で30日も満たず収穫できます。ただ原産地では冬は氷点下に、夏は30度以上になり乾くので、これら不良な季節は種や太らせた根の形で乗り切ります。そのため厳冬期と真夏は栽培できません。種まきから収穫までは、35～45日ほどですが、晩春と初秋まきは生育が早く25～30日、生育の遅い早春まきでも50～60日ほどです。

さまざまな形や色の品種があるのも特徴で見た目も楽しい野菜です。根長は根部長い円錐形の品種でも12cmほどなので5L程度の小型プランターで十分栽培できます。



「さくらんぼ」  
きれいな球形で、濃い赤色の最短25日ほどで収穫できる早生品種

### 【基本情報】

- 分類：アブラナ科ダイコン属
- 原産地：中央アジア（諸説あり）
- 発芽適温(地温)：15～25度
- 生育適温(気温)：15～20度
- 日当たり：日なた ●好適pH：5.5～6.5

### 【病害虫情報】

キスジノミハムシ：葉に小さな穴を多数開ける。種まき直後から目合い1mmほどの防虫ネットで防ぎ、成虫は捕殺する。  
アブラムシ類：葉や茎に群生し汁を吸い、ウイルス病も媒介する。不織布や防虫ネットで予防し、発生したら早めに葉を散布する。

## ハツカダイコンの栽培方法

### 1 種まき

小型プランター(5L)へ、化成肥料(NPK各成分8-8-8)約28gを混ぜた土を入れる。8cm間隔で2列、深さ1.5～2cmのまき穴を株間が5cmになるようペットボトルのふたなどで開ける(写真1)。収穫する根の大きさは株間の広さによって変わるので、大きくしたい場合は株間を広くする。まき穴1カ所に種を4～5粒まき(写真2)、土をかけ手で押さえ、しっかり水やりする。日当たりの良い所で栽培し、徒長を防ぐ。

種まき直後から防虫ネットのトンネルがけや不織布をべたがけして害虫防除に努める。また、晩秋から早春(10月中旬～3月上旬)の種まきは気温が低いので、支柱をして園芸用フィルムのトンネル(写真3)で保温して出芽や生育を促す。

ポイント！発芽適温で一斉に出芽させる。



### 2 間引き

出芽は3日ほど。子葉が開いた頃に間引きして1カ所3株に(写真4)、本葉2枚の頃(写真5)に1株に間引き。間引きの際に株がぐらつくならば、周りの土を寄せるか新たに足す。本葉が開いてからは気温の高い時期は30度以上にならないようにする。

肥料は元肥のみで栽培するが、葉の色が薄いときは500倍程度に薄めた液肥を施す。

ポイント！間引きは適期に2回する。

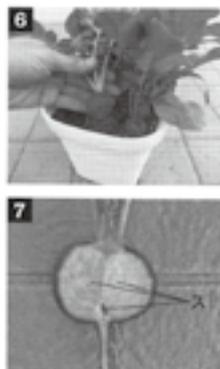


### 3 収穫

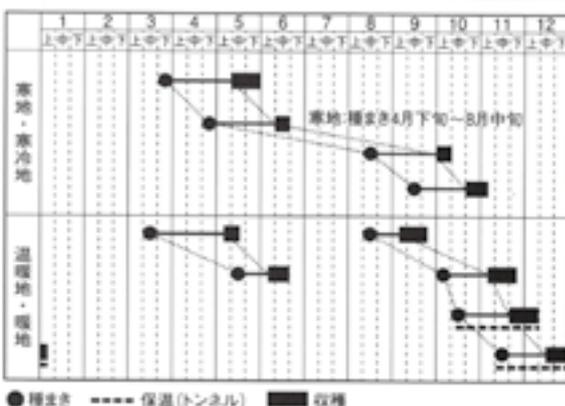
本葉が5～8枚、根径が2～3cmになったら収穫する(写真6)。収穫に適した期間は7日ほどで、特に春や秋は3日ほどと短いので採り遅れに気を付ける。葉柄部分を折って断面に小さな穴が開いていると根にスが入っている(写真7)。

※内部がスポンジ状にスカスカになっている状態のこと

ポイント！収穫は遅れずスが入る前に行う。



### 栽培カレンダー



※温帯地を基準に記事を作成しています。



○ 田植え

早い地区では、3月下旬より田植えが始まります。土壤改良剤を未投入のほ場は、早めに投入し、地力の増進を図りましょう。また、田植えの5日ほど前から育苗ハウスのサイドビニールを下げ、苗を外気に慣らしましょう。(遅霜の場合は注意が必要です)

①田植えの適期は4月5日から15日頃です。

②元肥939は、代かき直前に行ってください。

※なお、今年度から施肥量を 60kg / 10a へ変更しています。活着肥の成分が含まれていますので、別途活着肥を散布する必要はありません。(省力化)

③植え付け本数は、1坪当たり55～60株程度。1株の苗数は3～5本が標準です。苗数が多くなると過繁茂の原因となり、倒伏や病害虫が発生しやすくなりますので注意しましょう。田植機の整備・調整は必ず事前に行ってください。

④植え付けの深さは活着や分けつ等に大きく影響します。2～3cmが目安です。

※ジャンボタニシの発生するほ場では、水深3～5cm程度の浅水とすることで、食害の被害が低減しますので、水管理に注意しましょう。

○水管理

暖かい日中は浅水にしますが、活着するまでは朝晩冷え

込むことがあります。気象情報を確認しながら、新しい根が出るまでは深水を保ちましょう。活着後は、浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつの促進に努めてください。

○病害虫・雑草等対策

初期では、イネミズゾウムシや葉いもち病が防除の中心です。田植え前には、箱施薬(ブーンパディート箱処理剤)を必ず散布し、むらが出ないように施用しましょう。1箱当たりの散布量は50gとなります。

※除草剤と間違えて散布しないよう注意してください。

除草剤は、プライオリティ剤を散布します。田植え後5日から15日の間に散布し、その後は水を張った状態を5日ほど保ってください。水の掛け流しや、土の表面が見えるような場合は、除草の効果が落ちますので注意が必要です。

※なお、藻類対策として使用する(モゲトン粒剤)と中後期雑草対策としての第2回除草剤(アトリ粒剤)は、どちらか一方を選んでください。

※箱施薬や除草剤の使用方法は、早期水稲耕種基準に記載しています。

※トラクター等で、田・畑から公道に出る際は、必ず機械に付着している泥を落としてから走行してください。(法律で罰せられます)



1. 病害虫防除

対象病害虫	品 種	農薬名	希釈倍数	備 考
ミカンハダニ	温州	ハーベストオイル	80倍	発芽前
ミカンハダニ	中晩柑	ハーベストオイル	100倍	
カイガラムシ	温州、中晩柑	アプロード水和剤	1,000倍	
そうか病	温州	デランフロアブル	1,000倍	4月上旬(発芽3mm頃)

- ①かいよう病防除は3月上旬(発芽前)にICボルドー66D 60倍又はムッシュボルドー (DF)500倍を散布。
- ②かいよう病が心配される園では、4月上旬にコサイド3,000、2,000倍加用クレフノン200倍を散布。
- ③そうか病多発園では、再度デラン(F)1,000倍を使用。
- ④そうか病対策でフロンサイド(SC)2,000倍も使用可。

2. 施 肥

施肥時期	栽培タイプ	肥料名	品種名	10a 当たり
3月上旬	省カタイプ	新アグリロング28号	河内晩柑・清見・甘夏・パール柑・デコボン	5袋

	全タイプ	硫マグエース	全品種	2袋
4月上旬	通常タイプ	果樹専用スペシャル 又は 果樹専用「極」 又は ニュー熊本果樹3号	デコボン	5袋
			河内晩柑・清見・甘夏・パール柑	4袋
			ポンカン	8袋
			極早生 早生・中熟・普通	6袋

3. 葉面散布

まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進をしましょう。

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
樹勢回復	尿素 又は ニュージューシーN14 又は神協スピリッツ	500倍	いずれかを 使用ください
花芽分化促進	ジューシーエース	500倍	いずれかを 使用ください
緑化促進	葉面マグ	200倍	4月～6月まで 散布

